

STOP! 積雪や凍結 による転倒

冬季も

STOP! 転倒災害
プロジェクト



～トップが打ち出す方針 みんなで共有 生み出す安全・安心～

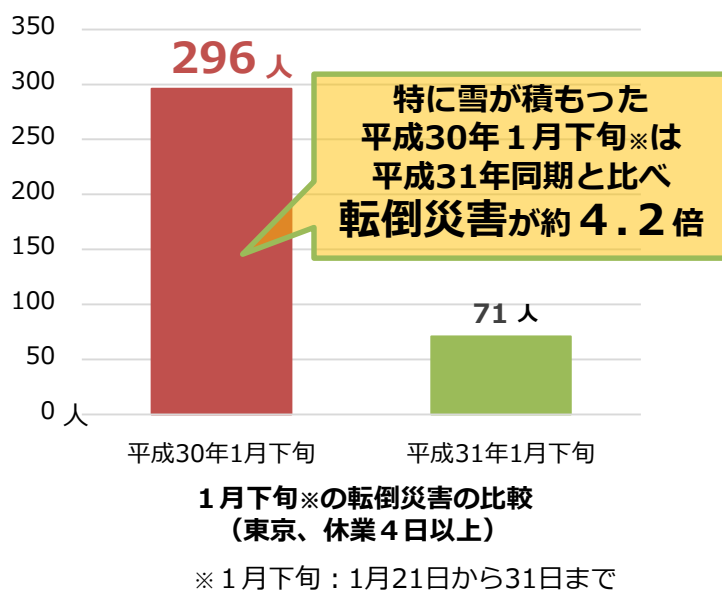
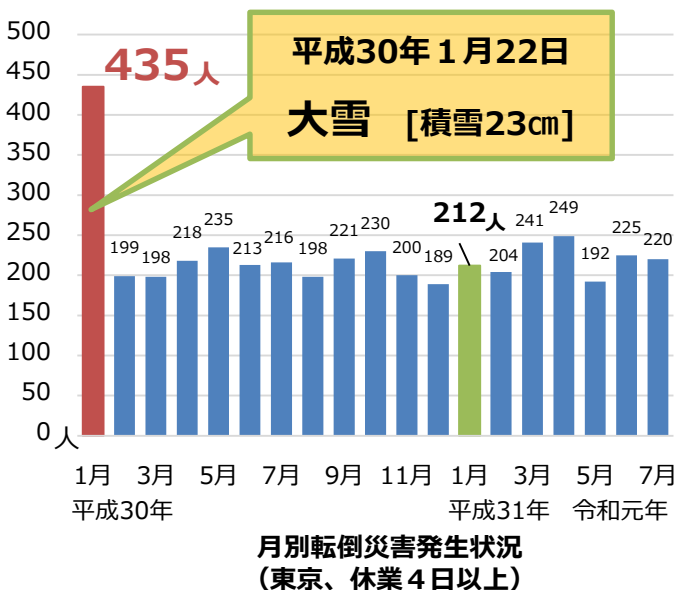
東京労働局・労働基準監督署

R1.12

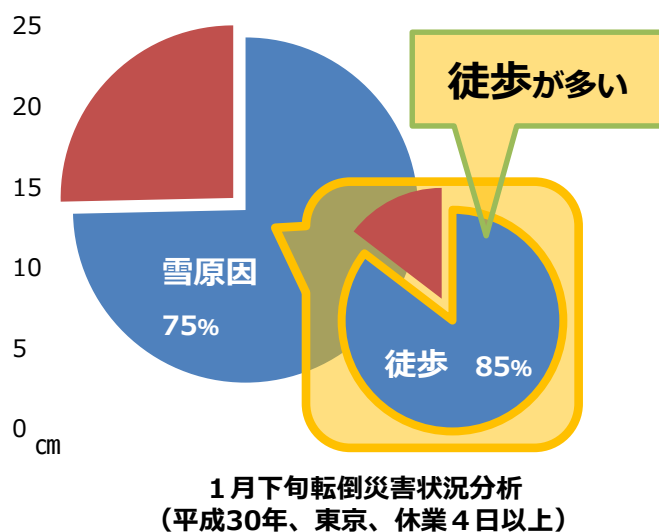
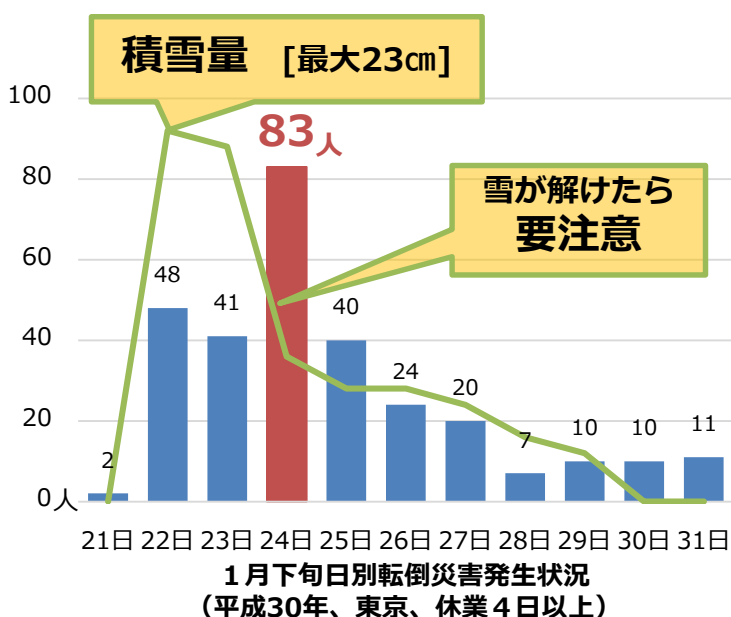
都内における転倒災害の発生状況

(平成31年・令和元年データは10月末時点での速報値)

- 平成30年1月22日に、平成26年豪雪以来4年ぶりの積雪23cmを記録し、積雪・凍結を原因と思われる転倒災害が大幅に増えました。
- 冬季の転倒災害の発生は、天候による影響を大きく受け、積雪・凍結により多発します。



- 最も転倒災害が多かった時期は、雪が降り始めた日ではなく、降雪から2日後の雪が解け始めた日でした。



- 雪が解け始めたら、路面凍結の可能性が高く、屋外の移動・作業は、特に注意が必要です。

地域の気象状況等を踏まえ、降雪が本格化する前に、次の事項を準備しましょう。

ポイント 1

気象情報の活用によるリスク低減の実施

- 大雪、低温に関する気象情報を迅速に把握する体制の構築
- 警報・注意報発令時等の対応マニュアルの作成、関係者への周知
- 気象状況に応じた出張、作業計画等の見直し

ポイント 2

通路、作業場所の凍結等による危険防止の徹底

- 屋外通路や駐車場における除雪、融雪剤の散布による安全通路の確保
- 事務所への入室時における靴裏の雪、水分の除去、凍結のおそれのある屋内の通路、作業場への温風機の設置等による凍結防止策の実施
- 屋外通路や駐車場における転倒災害のリスクに応じた「危険マップ」の作成、関係者への周知
- 凍結した路面、除雪機械通過後の路面等における荷物の運搬方法、作業方法の見直し
- 凍結した路面や凍結のおそれがある場所（屋外通路や駐車場等）における転倒防止のための滑りにくい靴の着用の勧奨

ひと休み

滑りにくい靴とは？

転倒防止には、靴選びが非常に重要です。靴を選ぶにあたっては、概ね右の5つの基準があります。

今回は、その中の「靴底と床の耐滑性のバランス」について考えてみましょう。

一口に滑りにくい靴と言ってもすべての路面に対応できる靴はありません。「水・油用」、「氷上用」、「粉体上」などの目的によりその対策は異なるためです。市販されている耐滑靴の多くは「水・油用」で、雪や氷の上では滑ることがあるため、凍結した路面がある冬季の屋外使用では注意が必要となります。

凍結した路面には、ピン・金具付きや靴底が柔らかく深い溝のある靴が効果的です。昨今は、ゴムバンドやマジックテープなどで靴底に固定する着脱可能な「靴用アタッチメント」もあるため、簡単に冬季用の靴を用意できます。

これを機に働く時の靴底を確認してみましょう。

転倒防止の靴の5つの選定基準



事前の準備は、安全委員会の委員等による職場巡視を実施し、下のチェックリスト等を活用して設備等の点検を行い、必要な改善や労働者の意識啓発を行いましょう。

チェック項目（冬季用）

1	通路、階段、出口に物を放置していませんか	☐
2	床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていますか	☐
3	安全に移動できるように十分な明るさ（照度）が確保されていますか	☐
4	転倒を予防するための教育を行っていますか	☐
5	作業靴は、作業現場に合った耐滑性があり、かつちょうど良いサイズのものを選んでいますか	☐
6	ヒヤリハット情報を活用して転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していますか	☐
7	段差のある箇所や滑りやすい場所などに、注意を促す標識をつけていますか	☐
8	ながらスマホやポケットに手を入れたまま歩くこと、手すりを持たない階段の昇降などを禁止していますか	☐
9	ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていますか	☐
10	天気予報に気を配っていますか	☐
11	時間に余裕をもって歩行、作業を行っていますか	☐
12	駐車場の除雪・融雪は万全に、出入口などにも注意していますか	☐
13	職場の危険マップ、適切な履物、歩行方法などの教育を行っていますか	☐

冬季前に
転倒災害防止対策を
行いましょう！

冬季も

STOP! 転倒災害
プロジェクト

東京労働局では、



Safe Work
TOKYO 2019

を展開しています。

労働災害の防止に関する様々な情報を掲載しています。

https://jsite.mhlw.go.jp/tokyo-roudoukyoku/news_topics/topics/2017/9_00002.html

